

公立豊岡病院紀要

第 35 号 2023



BULLETIN OF TOYOOKA HOSPITAL

No.35

令和 6 年 3 月 31 日

公立豊岡病院

豊病紀要

BULL. TOYOOKA HOSP.

巻頭言

公立豊岡病院紀要第35号の発刊にあたって

本年1月1日に能登地方にて大地震が発生し、非常に大変な年明けとなりました。当院のDMATチームにも出動要請があり、約1ヶ月間現地で医療提供を行いました。大規模災害はいつ・どこで起こるか分からず、日々の「備え」の重要性も再認識したところです。当院はこの広大な但馬地域における唯一の3次救急医療機関であり、災害拠点病院でもあります。引き続き、地域の皆さまの健康と生命を守り続けられるよう取り組んで参る所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、この度、公立豊岡病院紀要第35号を発刊する運びとなりました。本号は、研究論文や研修報告、その他各種研究業績の報告等を多数掲載し充実した内容となっています。新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類感染症へと移行され、各種の学会が現地開催されるようになりました。多くの職員が学会に参加し、日々の診療成果を報告していただいております。職員の皆さんの学ぶ姿勢は変わらず力強いものと改めて感心致しました。今回執筆いただいた報告をきっかけに、それぞれの分野のより専門性の高い学術誌へ積極的に投稿・発表していただくことを期待しております。

当院は但馬地域唯一の高度専門医療が提供できる基幹病院として、良質な医療を提供するという使命を果たすために、今後も皆様と一緒に歩んでいきたいと思っております。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、執筆頂いた職員の皆さま、ご多忙の中、第35号の発刊に向けご尽力頂いた編集委員の皆さまに心より感謝申し上げます。

令和6年3月

公立豊岡病院長
三輪 聡一



目次

巻頭言

病院長 三輪 聡一

研究論文

くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する新しい治療-当院におけるクラゾセンタンナトリウム導入後の初期成績の検討

脳神経外科 中井 友昭 他 1

透析シャント側の乳癌術後リンパ浮腫に対し、関連科と連携してリンパ浮腫指導を継続しえた一例

乳腺外科 福井 由紀子 他 11

” Floating balls sign ” という特徴的な画像所見を示した成熟奇形腫の一例

産婦人科 山岡 侑介 他 15

研究業績

他誌掲載論文

20

学会他発表

23

講演

29

研究報告

緩和ケア病棟から一般病棟再編成に向けた人材育成
きるリーダーの育成

看護師長 城山 奈穂美 32

資料

公立豊岡病院紀要投稿規定

34

公立豊岡病院紀要論文執筆要領

35

編集後記



私たちの基本理念

公立豊岡病院は但馬地域の基幹病院として、高度かつ最適な医療を安定的に提供し、地域住民の健康と生命を守り続けます。

豊岡病院の基本方針

1. 生命の尊厳と人権を尊重し、
患者に寄り添う医療を提供します。
2. 診療科や職種を超えた
連携によるチーム医療を推進します。
3. 24時間体制で最適な医療を提供します。
4. 医療安全を重視する組織文化を定着させ、
安全・安心な医療を提供します。
5. 地域の医療・保健・福祉機関との
相互連携を推進します。
6. 職員一人ひとりが、自覚をもって
経営の健全化に努めます。
7. 医療水準向上を目的に、職員の
研修・教育の充実を図ります。

研究論文

-くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する新しい治療-

当院におけるクラゾセンタンナトリウム導入後の初期成績の検討

- 1) 公立豊岡病院組合立 豊岡病院 脳神経外科
- 2) 宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院
- 3) 兵庫県立こども病院 脳神経外科
- 4) 公立豊岡病院組合立 豊岡病院 救急集中治療科 / 但馬救命救急センター

中井 友昭¹⁾、池尾 諒介¹⁾、源吉 駿¹⁾、田邊 大季²⁾、新田 修幹³⁾、梅田 昂、
中村 直人¹⁾、勝部 毅¹⁾、庄瀬 裕康²⁾、山本 祐輔¹⁾、永嶋 太⁴⁾

要旨

【緒言】本邦において、2022年4月20日より、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血後の脳血管攣縮予防薬として、クラゾセンタンナトリウムが発売され、全国で実臨床上の使用が可能となった。当院（豊岡病院）では、同年6月より院内採用となり、対象疾患に対し積極的に投与を行っている。

【目的】市販後のクラゾセンタンの使用状況や治療成績について、自施設での初期経験を検証する。

【方法】従来管理との比較を中心に、クラゾセンタン導入後の攣縮発生率や安全性を検討した。

【結果】クラゾセンタン導入前の2年間（2020年1月～2021年12月）において、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血に対し急性期積極的治療を行った症例は59例で、うち26例（44.1%）で脳血管攣縮を呈していた。その後、2022年6月から2023年8月末までの15か月間において、内因性くも膜下出血に対し急性期外科的治療を行い得た症例は34例あり、うち24例にクラゾセンタンを使用した。このうち、クラゾセンタン使用前から既に攣縮が併存していた4症例を除く20例の経過中で、脳血管攣縮の出現を認めたのは3例（15%）のみであった。なお、別途3例で、胸水・肺水腫や喉頭浮腫、うっ血性心不全が顕在化したが、投与中止とともに適切な処置により、長期ないし永続的な心肺機能障害を来すことなく、改善に至った。

【結語】クラゾセンタン導入後の脳血管攣縮の有無について、初期使用成績は良好であった。副作用として、肺水腫、胸水、脳浮腫などの体液貯留が問題となるが、急性期に集中治療室にて救急集中治療科と連携し管理を行うことが、安全性の観点から有用と考えられた。ただし、導入後間もないため、症例数が少なく、長期的予後も不明であり、また、抗血小板薬投与をはじめとする他の攣縮予防・治療の併用の要否など、今後のさらなる症例蓄積による検証が必要と考える。

索引用語 : くも膜下出血、脳血管攣縮、クラゾセンタン

透析シャント側の乳癌術後リンパ浮腫に対し、 関連科と連携してリンパ浮腫指導を継続しえた一例

公立豊岡病院組合立 豊岡病院 乳腺外科 1) 看護部 2)

福井 由紀子 1) 坪野 ますみ 2) 杉本 堯 1) 遠藤 真一郎 1) 水田 誠 1)

要旨

日本における透析患者数、乳癌患者数はともに年々増加傾向にある。乳癌の腋窩リンパ節郭清術後には続発性リンパ浮腫を発症する可能性があるが、透析シャント側に乳癌術後リンパ浮腫を来した症例や、その対応についてもこれまで報告はなされていない。今回われわれは、透析シャント側に乳癌術後リンパ浮腫を発症し、チーム医療によりリンパ浮腫指導を行い、透析、乳癌治療とも継続可能となったことで予後延長につながり、患者満足を得られた症例を経験したので報告する。症例は64歳女性。糖尿病性腎症に対して左前腕内シャントにて透析導入後に、左乳癌、腋窩リンパ節転移の診断となった。乳房全切除術＋腋窩リンパ節郭清を施行し、その後再発が認められ化学療法を継続していた。化学療法継続中に続発性リンパ浮腫を発症し、透析シャントとリンパ浮腫が同側上肢に重複した状態となった。リンパ浮腫軽減には圧迫療法が勧められるが、シャント部への圧迫は避けるべきであり、まずはスキンケア、体重管理指導のみ行なった。しかしその後、さらにリンパ浮腫が進行し、皮膚の菲薄化が顕著となった。穿刺困難のリスクに加え、皮膚裂創による感染リスクが懸念された。心臓血管外科とカンファレンスし、シャント開通を確認しながら低圧での圧迫療法を試行する方針とした。化学療法部、透析室と連携をとりながら圧迫療法を開始し、シャントは維持され、リンパ浮腫は悪化せず経過した。これにより透析、乳癌治療とも継続可能となり、患者の生命予後延長にも寄与したと考えられた。またチーム医療で一患者の治療に臨んだことで患者、家族の満足を得ることができた。透析シャント側へのリンパ浮腫指導介入の報告はこれまでないが、関連部門と連携しながら慎重に介入するのであれ、有効な治療となりうると考えられた。

索引用語 : 透析シャント、乳癌、術後リンパ浮腫

” Floating balls sign” という特徴的な画像所見を示した成熟奇形腫の一 例

公立豊岡病院組合立 豊岡病院 産婦人科

山岡 侑介, 住友 理浩, 上林 翔大, 今竹 ひかる, 大月 美輝, 信正 智輝

要旨

【目的】成熟奇形腫は通常、画像検査で脂肪成分を同定することで術前に診断することが可能であるが、多彩な画像所見を呈するため診断に苦慮することも多い。今回、術前の画像評価において”Floating balls sign”と呼ばれる所見を示す成熟奇形腫の1例を経験したため報告する。

【症例】53歳、女性、1妊1産。15年前にMRIで8cm大の右卵巢奇形腫の診断を受けていた。フォロー自己中断していたが近医にて経腹超音波で20cmを超える骨盤内腫瘍を認めたため精査加療目的に当科紹介受診。MRIにて最大径217mmの巨大単房性嚢胞と、内部に15-30mm大の浮遊球を無数に認めた。成熟奇形腫の術前診断で腹式右付属器切除を行い、病理評価にて皮膚や気管支、小腸粘膜と類似した組織を認め成熟奇形腫の診断となった。

【結論】”Floating balls sign”は成熟奇形腫に特異的な所見でありその診断に有用である。

索引用語 : 索引用語：成熟嚢胞性奇形腫，卵巢腫瘍，画像診断

研究業績

他誌掲載論文

卵巣癌に対して PARP 阻害薬使用中に貧血と血小板減少が遷延し診断された治療関連白血病の一例

公立豊岡病院 産婦人科

濱田航平, 大月美輝, 山田香, 門元辰樹,
上林翔大, 住友理浩

日本婦人科腫瘍学会雑誌(1347-8559)40 巻 3 号

Page173-178(2022.07)

要旨

PARP (poly (ADP-ribose) polymerase) 阻害薬使用中の治療関連骨髄腫瘍はまれではあるが遭遇する合併症である。今回、末梢血中に芽球や異型細胞の出現を認めなかったが、遷延する貧血と血小板減少があり治療関連白血病の診断に至った一例を経験したため報告する。症例は 61 歳、卵巣癌に対して dose dense TC 療法 (カルボプラチン, パクリタキセル) 3 コース施行後に IDS (Interval debulking surgery) を行い、術後 TC 療法を 6 コース施行して完全奏効を確認したが 3 年後に下腹壁皮下と肝臓に再発し、TC 療法 4 コース施行後に再発皮下病変を完全切除し術後 TC 療法を 3 コース施行して olaparib 維持療法を開始した。Olaparib 開始 4 カ月目より貧血と血小板減少が遷延し、頻回の輸血を要するようになったため、末梢血中に芽球や異型細胞の出現はなかったが骨髄穿刺を行ったところ治療関連白血病の診断に至った。PARP 阻害薬使用中の血球減少は治療関連骨髄腫瘍の合併の有無の判断に苦慮するが、血球減少が遷延する場合には早めの骨髄生検を検討するべきである。

当院で腹腔内化学療法を施行した卵巣癌症例の後方視的検討

公立豊岡病院産婦人科¹⁾

京都大学医学部婦人科学産科学教室²⁾

近畿大学医学部産科学婦人科学教室³⁾

下仲慎平¹⁾, 住友理浩¹⁾, 門元辰樹¹⁾,

酒井美恵¹⁾, 小原勉¹⁾, 鈴木悠¹⁾,

山ノ井康二²⁾, 松村謙臣³⁾

産婦人科の進歩(0370-8446)74 巻 3 号

Page324-329(2022.08)

要旨

卵巣癌は腹腔内臓器や腹膜への播種を伴うことが多く、化学療法を含め集学的治療が重要である。腹腔内病変の制御に対し腹腔内化学療法の有用性は示されてきたが、毒性やその手技の煩雑さから一般的な治療法とはなっていない。今回われわれは、2001-2015 年までに当院で初回治療が開始された上皮性卵巣癌症例 42 例のうち、2 期以上で腹腔内化学療法を施行した 23 例を対象として、後方視的に腹腔内化学療法の有効性を検討した。腹腔内化学療法について、カルボプラチンは Calvert の式で area under the blood concentration-time curve 6 となる量を基本量として腹腔内投与を、パクリタキセルは 175 [mg] / 体表面積 [m²] を基本量として経静脈投与を行っていた。手術および腹腔内化学療法を含めた初回治療終了時の治療効果は、パクリタキセルに対するアナフィラキシーショックで死亡した 1 例を除き、complete response (CR) 17 例 (77%), partial response (PR) 1 例 (5%), progression disease (PD) 4 例 (18%) であった。CR17 例のうち、7 例は無再発生存、10 例が再発した。10 例の再発症例のうち腹腔内再発は 5 例、リンパ節再発または遠隔転移のみで腹腔内に再発を認めなかった症例は 5 例であった。3 年 progression free survival (PFS) は 48% で、中央値は 37 カ月であった。副作用について、grade3 以上の好中球減少が 12 例 (52%), カテーテル閉塞が 3 例 (13%), 腹痛が 3 例 (13%), 前述のアナフィラキシーショックが 1 例 (4%) 認められた。本研究では、比較的良好な PFS や腹腔内病変の制御率を認めたものの、有害事象の点からは、今後腹腔内化学療法には非常に慎重な検討が必要である。

肺膿瘍の診断および経過観察に胸部超音波検査が有用であった 1 例

公立豊岡病院 小児科

西藤 知城, 市川 裕太, 中山 栗太,

要旨

症例は生来健康な9歳の男児。随伴症状のない発熱が続くため近医を受診し、胸部 X 線写真で右上肺野に肺炎像を指摘された。アジスロマイシン内服で改善がなく紹介入院した。身体診察では右上胸部で呼吸音減弱と叩打痛を認めた。胸部造影 CT で右上葉に造影効果のある隔壁に囲まれた液貯留を認め、胸部超音波(コンベックス型プローブ, 5~10MHz)では同部位に臓側胸膜に接する不整な壁に囲まれた低エコー域を認めた。肺膿瘍と診断しアンピシリン・スルバクタムの点滴投与を開始した。胸部超音波検査で膿瘍の大きさを経時的に観察し、縮小傾向にあることを確認した。第35病日にアモキシシリン・クラブラン酸内服へ変更し第39病日に退院とした。肺膿瘍の多くは胸部超音波検査で病変の描出が可能とされる。肺膿瘍において、胸部超音波検査は経時的に膿瘍径を計測することができ、診断だけでなく治療効果判定・経過観察にも簡便で有用な手段である。

宿便性閉塞壊死大腸炎を疑う症例に対する治療戦略に関する検討

公立豊岡病院 但馬救命救急センター¹⁾
鳥取県立中央病院 救命救急センター²⁾
番匠谷友紀¹⁾, 小林誠人²⁾, 高須惟人¹⁾,
菊川 元博¹⁾, 永嶋 太¹⁾
日本救急医学会雑誌(0915-924X)33 巻 12 号
Page994-1002(2022. 12)

要旨

【目的】宿便性閉塞性大腸炎は、身体所見や画像所見が非特異的で、結腸壊死の評価に難渋することが少なくない。宿便性閉塞性大腸炎の手術適応と手術戦略を明らかにする。

【対象】宿便性閉塞性大腸炎 30 例を、結腸壊死の有無で2群にわけ、バイタルサイン、腹部所見、CT 所見、血液検査などを比較し、壊死の予測因子を調べた。また手術症例において、壊死の進行頻度と、CT 所見と壊死範囲の比較から、手術戦略について検討した。

【結果】壊死群 15 例、非壊死群 15 例で、腹膜刺激徴

候の有無、CT 所見(腹水・脂肪織濃度上昇など)は、2群で有意差はなかった。来院時の shock index(1.10 vs. 0.83, $p=0.01$)と血液検査の乳酸値[8.3 vs. 3.8(mmol/L), $p<0.01$]で有意差を認め、乳酸のカットオフ値は 5.8mmol/L (AUC0.862, 95%信頼区間 0.727-0.996)であった。また手術症例は 18 例で、うち 4 例で壊死の進行を認めた。壊死範囲は CT の腸管拡張範囲と 84.6%で一致した。

【結語】宿便性閉塞性大腸炎の結腸壊死の有無は、腹部所見、CT 所見から判断するのは難しく、血液ガス所見が有用である。乳酸値 5.8mmol/L 以上の場合、壊死を疑い試験開腹を考慮する必要がある。拡張腸管は壊死のリスクが高く、拡張腸管が残る場合は、二期的手術で壊死進行の有無を確認することが望ましい。

坐骨神経痛を主訴とした遺残坐骨動脈瘤に対する血管内治療例

公立豊岡病院 呼吸器・心臓血管外科
井内幹人, 那須通寛, 田中仁
日本血管外科学会雑誌(0918-6778)32 巻 1 号
Page37-40(2023. 2)

要旨

症例は 67 歳、女性。右大腿外側の痛みを主訴に整形外科を受診した。MRI にて異常血管を指摘され当科へ紹介された。CT 血管造影にて右内腸骨動脈は上臀動脈分岐後に大坐骨孔を通り紡錘状の最大外径 2.0cm と瘤化し、大腿背側より膝窩動脈へ連続していた。浅大腿動脈は低形成で大腿末梢部にて終止し、Pillet-Gauffre 分類 type 2a の遺残坐骨動脈の瘤化と診断した。拍動した遺残坐骨動脈瘤による坐骨神経への圧迫症状と考えられた。坐骨神経周囲への外科的侵襲を避けるため VIABAHN を瘤内に留置した。退院前には瘤の縮小は証明できなかったが、endoleak を認めず、坐骨神経痛は軽減した。1 年後に瘤は完全に縮小しており、同時に坐骨神経痛、運動障害は消失していた。4 年間外来観察中で、VIABAHN の破損・閉塞もなく、endoleak も認めず良好に開存しており、坐骨神経痛もなく順調に経過している。

臨床倫理コンサルテーションチーム稼働に向け

た取り組み 体系的な臨床倫理体制の構築をめざして

公立豊岡病院

臨床倫理コンサルテーションチーム

谷垣智子, 安原沙織, 山崎恵, 吉垣留美子,
鶴田祐子, 成田裕子, 関滝江, 田中薫,
那須通寛

全国自治体病院協議会雑誌(0389-1070)62巻3号

Page412-416(2023.03)

要旨

急性期医療においては治療が優先され、倫理的問題は軽視される傾向にある。当院においても、臨床現場のスタッフは日常の倫理的問題を認識しているものの、日々行われる部署内カンファレンスは安全重視の妥当性を検討する内容にとどまっておらず、患者の権利や尊厳を重視した内容にまでは及んでいない。また、当院には倫理委員会が設置されているが、現場の職員が遭遇する倫理的問題を検討する場ではなかった。そんな中、2019年の病院機能評価受審において、職員のジレンマや倫理的課題を組織の問題として共有・検討する機会や場が必要との指摘を受けたことをきっかけに、他施設での倫理に関する体系や取り組み状況等の調査を行い、臨床倫理体制の見直しと臨床倫理コンサルテーションチーム(CECT)の立ち上げに向けた活動を開始した。その内容を以下の項目別に報告した。1)CECTの組織作りとワーキングメンバーの人材育成。2)CECTメンバーの人材育成と院内広報。3)CECTの役割と院内活動。

血液培養より *Pseudomonas otitidis* が検出された一例

公立豊岡病院 検査技術科

後藤孝文、久保侑也、長谷川香織

日本臨床微生物学会雑誌(2434-866X)33巻 Suppl.1

Page 254(2022.12)

要旨

【はじめに】*Pseudomonas otitidis* (*P. otitidis*) は、2006年に新種報告され、耳感染症例に多く分離される。今回我々は、*P. otitidis* を血液培養より検出し、Metallo- β -lactamase (MBL)産生 *Pseudomonas aeruginosa* (*P. aeruginosa*) と誤同定した症例を経験したので報告する。

【症例】70歳代男性。脳梗塞、水疱性類天疱瘡で当院通院中。20XX年9月2日より発熱、下肢疼痛が出現し当院救急外来受診するも原因不明で、血液培養を採取し帰宅。翌9月3日、当院を再診し右下腿蜂窩織炎の診断、前日の血液培養が陽性となり緊急入院し、VCMとMEPMが開始。持続菌血症を認め、MEPMをLVFXに変更し、9月17日の血液培養で陰性化確認。

【細菌学的所見】血液培養は2セットが陽性となり、グラム陽性球菌(GPC)とグラム陰性桿菌(GNR)が認められた。GPCはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)と同定された。GNRは好気培養にてラフ型コロニーが発育し、VITEK2/GN同定カード(バイオメリュー・ジャパン)を使用し *P. aeruginosa* と同定された。DPS192iX/EP01プレート(栄研化学)で感受性試験を実施し、DRPMのみ耐性を認めた。追加試験でMBLの産生を認め、MBL産生 *P. aeruginosa* と報告した。最終報告後、質量分析および16S rRNA解析により *P. otitidis* と同定され、誤同定が判明した。

【まとめ】*P. otitidis* は *P. aeruginosa* に相同性が高く、生化学的性状やコロニー形状が類似するため、表現型のみでの鑑別は困難である。ただし、染色体性MBL(POM-1)を産生し特徴的な薬剤感受性を示すため、カルバペネム系抗菌薬のみ耐性を認める *Pseudomonas* 属菌は本菌を念頭におく必要がある。

講 演

診療科	演者名	題名	講演会名	公演日
内分泌・糖尿病内科	岸本 一郎	糖尿病治療における脂質管理	Kowa Web Conference (Web配信)	令和4年8月23日
		糖尿病治療における脂質管理	Kowa Web Conference (Web配信)	令和4年10月4日
		リアルタイムCGMを活かした糖尿病診療	糖尿病先進デバイスセミナー ～良くわかるリアルタイムCGM～ (豊岡市)	令和5年3月23日
	和田 里美	糖尿病治療薬の基本的知識とその使い分け	テルモ株式会社社内研修会 (豊岡市)	令和4年12月12日
		内分泌・糖尿病内科の取り組み	Joint Meeting Web講演会 (Web配信)	令和4年11月10日
脳神経内科	伊賀 賢一	レビー小型認知症の診断及びパーキンソンニズムの治療について	DLB Seminar in但馬2022 (豊岡市)	令和4年7月26日
	伊藤 大樹	但馬医療圏におけるパーキンソン病のリハビリ状況	神経難病を考える会 (Web配信)	令和5年3月23日
呼吸器内科	中治 仁志	但馬エリアにおける肺癌診断の課題と展望	中外製薬株式会社社内研修会 (Web配信)	令和4年4月7日
呼吸器内科	中治 仁志	但馬エリアにおける肺癌診断の課題と展望	但馬の肺癌診療を考える会 (豊岡市)	令和4年5月20日
	三好 琴子	肺癌治療の現状について	一般社団法人但馬薬剤師会・兵庫県病院薬剤師但馬支部(豊岡市)	令和4年7月20日
		新型コロナウイルス感染症について	(一般社団法人)但馬薬剤師会・兵庫県病院薬剤師但馬支部(豊岡市)	令和4年7月20日
消化器科	山田 貴裕	炎症性腸疾患の治療の実際	自己免疫性疾患診療を考える会 in 但馬 (豊岡市)	令和4年10月26日
循環器内科	矢坂 義則	CTO Tip & Trip	BAY CONFERENCE (Web配信)	令和4年9月9日
		高中性脂肪血症治療の最新の話	興和株式会社社内研修会 (豊岡市)	令和5年1月25日
		高度石灰化治療におけるIVUS読影	高度石灰化治療におけるIVUS読影 (神戸市)	令和5年2月28日
	北川 達也	循環器内科における動脈硬化への取組	但馬循環器疾患治療Webセミナー (Web配信)	令和5年2月8日
精神科	三木 寛隆	医療関係者に知って欲しい“うつ”の基礎知識	但馬地域 多職種連携の会 (Web配信)	令和4年12月3日
	安東 宇揚	不眠症の加療戦略最近見るレンボレキサントって何？～睡眠薬はどれを使いますか？～	睡眠薬の適性使用を考える会 in 日高	令和4年6月2日

精神科	酒井 弘人	豊岡病院でのうつの治療について	精神科医療を考える会 in但馬 (豊岡市)	令和4年10月20日
	畑 京佑	精神科と便秘の関連	但馬エリア慢性便秘症治療WEB講演会 (Web配信)	令和4年5月26日
小児科	山田 博之	豊岡病院発達外来の現状と課題	第1回地域で考える小児の発達障害診療in但馬(豊岡市)	令和4年6月11日
		小児てんかんの薬物療法	ユーシーピージャパン株式会社社内研修会(豊岡市)	令和4年12月15日
外科	三木 明	胃癌治療に関して	第一三共(株)関西支店神戸第5営業所社内研修会(Web配信)	令和5年2月14日
乳腺外科	水田 誠	乳がん診療のアウトライン	第55回兵庫県病院薬剤師会但馬支部研修会(Web配信)	令和4年12月17日
脳神経外科	中井 友昭	当院における脳血管攣縮予防と治療	ピヴラツツ発売記念講演会in播磨 (姫路市)	令和4年9月8日
		頭部外傷とてんかん	てんかんカンファレンスセミナーin但馬 (豊岡市)	令和5年1月13日
	庄瀬 裕康	てんかん領域における診断と治療	エーザイ株式会社 MR講習会 (豊岡市)	令和5年3月22日
皮膚科	秋山 創	蕁麻疹の診断と薬物療法	豊岡市医師会学術講演会 (豊岡市)	令和4年5月19日
		当院における乾癬の診断と治療方針について	大鵬薬品工業株式会社社内研修会 (Web配信)	令和4年7月28日
		糖尿病等に伴う爪白癬の治療	自己免疫性疾患診療を考える会 in 但馬 (豊岡市)	令和4年10月26日
		当院での強皮症の治療について	日本新薬株式会社社内研修会 (豊岡市)	令和4年12月19日
産婦人科	住友 理浩	内科医の為の婦人科がんについて ～子宮頸がんワクチン・卵巣がんを中心に～	豊岡市医師会共催学術講演会 (豊岡市)	令和4年10月13日
	松原 慕慶	子宮体癌における診断と治療	エーザイ株式会社 MR講習会 (豊岡市)	令和5年3月2日
	上林 翔大	産婦人科領域における良性・悪性腫瘍手術の基本的知識	テルモ株式会社社内研修会 (Web配信)	令和4年7月5日
泌尿器科	請田 翔子	前立腺癌の診断と治療	AstraZeneca Urological Seminar (Web配信)	令和5年3月25日
救急集中治療科	永嶋 太	PCASにおける体温管理療法の実践	Web講演会(Web配信)	令和4年10月26日
	番匠谷 友紀	DC0 から繋ぐ外傷診療 ～女性救急医は第一線で活躍し続けられるか?～	京滋クリティカルケア・ヤングアカデミー2022セミナー(京都市)	令和4年7月16日
看護部	安原 沙織	“眠らない患者”とのコミュニケーションのコツ	睡眠薬の適性使用を考える会 in 日高	令和4年6月2日

看護部	坪野 ますみ	乳癌治療の実際 ～看護の立場から薬物療法のアドヒアランスを高めるアプローチ～	第55回兵庫県病院薬剤師会但馬支部研修会(Web配信)	令和4年12月17日
	小畑 敬信	コミュニケーションスキルで、手術患者の安全を守ろう！	日本手術看護学会近畿地区大会	令和4年6月25日
		どうしてる？安全なラテックスフリー環境・術中感染対策	近畿地区手術看護認定看護師会2022年度教育セミナー(大阪市)	令和5年3月11日
薬剤部	中永 かおり	分子標的治療薬の副作用とその対策	薬剤師連携推進研修会(神戸市)	令和4年7月24日
	木瀬 大輔	肝胆臓がん	薬剤師連携推進研修会(神戸市)	令和4年12月4日
リハビリテーション技術科	井垣 誠	生活習慣病予防のための運動指導について ～糖尿病重症化予防を中心に	特定保健指導スタッフ研修会(豊岡市)	令和4年9月30日
臨床工学技術科	尾田 友広	各種モード、ペーシング、センシングについて(ペーシング不全、センシング不全を含む)	基礎から学ぼうシリーズ！「CIEDs PM編」(Web配信)	令和4年9月3日
	尾田 友広	CRRTにおける回路内凝固因子についての検討 ～持続緩徐式血液濾過器を含めて～	中外製薬株式会社社内研修会(Web配信)	令和5年1月31日

学 会 他 発 表

Edwardsiella tarda による菌血症、腸骨筋膿瘍、 後腹膜膿瘍の治療中に直腸癌を診断できた1例

公立豊岡病院 総合診療科

高田京加

第96回日本感染症学会総会・学術講演会

2022年4月22日～23日 於：Web

栄養補助食品の摂取によるミルクアルカリ症候群 の1例

公立豊岡病院 総合診療科

高田京加

第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2022年6月11日～12日 於：神奈川県横浜市

Differential risk factors for worsening renal function and for progression of proteinuria- Data from specific health surveys of Toyooka city

公立豊岡病院 内分泌・糖尿病内科

岸本一郎

第29回国際高血圧学会

2022年10月12日～16日 於：京都府京都市

Defining the optimal cut-off points of blood pressure components to predict the progression of chronic kidney disease in Toyooka city.

公立豊岡病院 内分泌・糖尿病内科

岸本一郎

第29回国際高血圧学会

2022年10月12日～16日 於：京都府京都市

Mycobacterium aviumによる有癭性膿胸に対し、気 管支充填術を行った一例

公立豊岡病院 呼吸器内科¹⁾

国立病院機構姫路医療センター 呼吸器内科²⁾

高嶋啓介¹⁾、高田悠司¹⁾、難波晃平¹⁾、
三好琴子¹⁾、中治仁志¹⁾、水守康之²⁾

第100回日本呼吸器学会近畿地方会

2022年12月17日 於：大阪府大阪市

非結核性抗酸菌症に合併した類上皮血管内皮腫の 一例

公立豊岡病院 呼吸器内科¹⁾

国立病院機構姫路医療センター 呼吸器内科²⁾

国立病院機構姫路医療センター 呼吸器外科³⁾

新宮祐亮¹⁾、三好琴子¹⁾、難波晃平¹⁾、

高田悠司¹⁾、中治仁志¹⁾、水守康之²⁾

山田徹³⁾

第100回日本呼吸器学会近畿地方会

2022年12月17日 於：大阪府大阪市

重症心身障害児／者（SMID）に対して実施した在宅 人工呼吸器管理（HMV）の臨床的検討

公立豊岡病院 小児科

港 敏則、末宗和樹、松尾進、藤本将史、

江國哲、竹本崇之、高田めぐみ、

山田博之、藤林洋美、上田雅章

第54回日本小児呼吸器学会

2022年10月15日 於：千葉県千葉市

当院での川崎病治療におけるシクロスポリンA追加 治療の経験

公立豊岡病院 小児科

竹本崇之

第286回日本小児科学会兵庫_

2022年5月7日 於：兵庫県神戸市

CPT-2 欠損症の学童児に対する患者家族教育と MCT の導入

公立豊岡病院 小児科
藤本将史

第 287 回日本小児科学会兵庫_
2022 年 9 月 17 日 於：兵庫県姫路市

兵庫県北部における医療的ケア児の社会的・臨床的特徴の調査

公立豊岡病院 小児科
藤川陽介

第 287 回日本小児科学会兵庫_
2022 年 9 月 17 日 於：兵庫県姫路市

早産児の乳児血管腫に対して NICU 入院中にプロプラノロールを導入した 2 例

公立豊岡病院 小児科
藤本将史

第 288 回日本小児科学会兵庫_
2023 年 2 月 4 日 於：Web

再発鼠径ヘルニアの術式選択についての考察

公立豊岡病院 外科
中口雄太

第 84 回日本臨床外科学会総会
2022 年 11 月 24 日～26 日 於：福岡県福岡市

左付属器切除・人工肛門造設後、人工肛門部に再発をみとめた卵巣癌 S 状結腸浸潤の一例

公立豊岡病院 外科 研修医
西崎 颯良

第 122 回日本外科学会定期学術集会
2022 年 4 月 14 日～16 日 於：熊本県熊本市

化学療法により HER2 陽性分泌癌が残存した浸潤性乳管癌と分泌癌の混合性乳腺腫瘍の 1 例

公立豊岡病院 乳腺外科
福井由紀子

第 60 回日本癌治療学会学術集会
2022 年 10 月 20 日～22 日 於：兵庫県神戸市

びまん性特発性骨増殖症 (DISH) 合併脊椎外傷の手術治療成績

公立豊岡病院 整形外科
正本和誉

第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会
2022 年 4 月 21 日～23 日 於：神奈川県横浜市

腰椎化膿性脊椎炎に対して前方搔破骨移植術及び罹患椎体への後方 instrumentation を併用した一例

公立豊岡病院 整形外科
夏目 大知

第 139 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会
2022 年 10 月 28 日～29 日 於：大阪府大阪市

皮膚有棘細胞癌のリンパ節転移に対する治療法についての検討

公立豊岡病院 形成外科

徳力俊治、清水健司、寺本瑞生

第 133 回 関西形成外科学会学術集会
2023 年 3 月 11 日 於：京都府京都市

弓部大動脈瘤に対する Total arch replacement 時に、Frozen elephant trunk に自作開窓を施した 1 例

公立豊岡病院 心臓血管外科

井内幹人、田中仁、平野竜史、那須通寛

第 50 回日本血管外科学会
2022 年 5 月 25 日～27 日 於：福岡県 北九州市

胎児・新生児溶血性疾患のリスクが低い不規則抗体が複数陽性となり胎児貧血を来した一例

公立豊岡病院 産婦人科

今竹ひかる、大月美輝、山田香、濱田航平、門元辰樹、上林翔大、住友理浩

第 74 回日本産科婦人科学会
2022 年 8 月 5 日～7 日 於：福岡県福岡市

当院における尿管バルンダイレーションの有効性に関する検討

公立豊岡病院 泌尿器科

古倉和紀、渡部淳、宅間敬晃、植村祐一、植垣正幸、白波瀬敏明

第 74 回西日本泌尿器科学会総会
2022 年 11 月 3 日～5 日 於：福岡県 北九州市

当センターにおける重症体幹部外傷に対する手術と IVR のコラボレーション

公立豊岡病院 救急集中治療科

永嶋太、松田知也、菊川元博、高須惟人、番匠谷友紀

第 36 回日本外傷学会総会・学術集会
2022 年 6 月 30 日～7 月 1 日 於：大阪府大阪市

悪くない現状の改定には、仕事を増やさない工夫と周知法が重要である

公立豊岡病院 救急集中治療科

番匠谷友紀

第 36 回日本外傷学会総会・学術集会
2022 年 6 月 30 日～7 月 1 日 於：大阪府大阪市

後遺症なく救命しえた Zone II 左総頸動脈損傷 IIIb 型の 1 例

公立豊岡病院 救急集中治療科

渡辺隆明、松本大昌、菊川元博、高須惟人、番匠谷友紀、永嶋太

第 36 回日本外傷学会総会・学術集会

2022 年 6 月 30 日～7 月 1 日 於：大阪府大阪市

骨性胸郭損傷に肺ヘルニアを合併した 2 例

公立豊岡病院 救急集中治療科

高須惟人、永嶋太、番匠谷友紀、菊川元博、松田 知也

第 36 回日本外傷学会総会・学術集会
2022 年 6 月 30 日～7 月 1 日 於：大阪府大阪市

フレイルチェストを伴う重傷肺裂傷に対する治療戦略：肋骨固定術に繋げた DCT の一例

公立豊岡病院 救急集中治療科¹⁾

健和会大手町病院 救急科²⁾

松田知也¹⁾、永嶋太¹⁾、松本大昌¹⁾、菊川元博¹⁾、高須惟人¹⁾、番匠谷友紀¹⁾、古城都²⁾

第 36 回日本外傷学会総会・学術集会
2022 年 6 月 30 日～7 月 1 日 於：大阪府大阪市

当センターの指導的立場の 1st フライドクターの資質を有した ACS 医の育成

公立豊岡病院 救急集中治療科

永嶋太

第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会
2022 年 9 月 30 日～10 月 1 日 於：宮崎県宮崎市

当センターの重症外傷性腓損傷に対する治療戦略：PD を極力回避する Parenchyma sparing procedure を中心とした SEALANTS approach

公立豊岡病院 救急集中治療科

永嶋太

第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会
2022 年 9 月 30 日～10 月 1 日 於：宮崎県宮崎市

パンデミックで分かった！ ACS 医は救急外来で働くべき

公立豊岡病院 救急集中治療科
高須惟人

第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会
2022 年 9 月 30 日～10 月 1 日 於：宮崎県宮崎市

ACS 医に必要な Non-technical skill を学ぶ上で、救急科での修練には意味がある。

公立豊岡病院 救急集中治療科
菊川元博

第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会
2022 年 9 月 30 日～10 月 1 日 於：宮崎県宮崎市

術前の CT 評価が行えずに緊急手術となった頸部杖創の一例

公立豊岡病院 救急集中治療科
松本大昌

第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会
2022 年 9 月 30 日～10 月 1 日 於：宮崎県宮崎市

当センターの腹部救急診療における多職種連携によるチーム医療

公立豊岡病院 救急集中治療科
永嶋太

第 59 回日本腹部救急医学会総会
2023 年 3 月 9 日～10 日 於：沖縄県宜野湾市

当センターの外傷性十二指腸穿孔に対する治療戦略

公立豊岡病院 救急集中治療科
永嶋太

第 59 回日本腹部救急医学会総会
2023 年 3 月 9 日～10 日 於：沖縄県宜野湾市

救急外科医のキャリアパス ～一般外科医との差別化についての検討～

公立豊岡病院 救急集中治療科
菊川元博

第 59 回日本腹部救急医学会総会
2023 年 3 月 9 日～10 日 於：沖縄県宜野湾市

重篤な特発性食道破裂に対して Damage control surgery (DCS) で良好な経過を辿った一例

公立豊岡病院 救急集中治療科
濱口悠

第 59 回日本腹部救急医学会総会
2023 年 3 月 9 日～10 日 於：沖縄県宜野湾市

「但馬流」チームビルディング 一朝一夕ではならない、チームで構築する敗血症診療

公立豊岡病院 救急集中治療科
松田知也

第 59 回日本腹部救急医学会総会
2023 年 3 月 9 日～10 日 於：沖縄県宜野湾市

当院における Open Abdominal Management 中の鎮静管理の現状

公立豊岡病院 救急集中治療科
谷口大介、永嶋太、番匠谷友紀、
松井大作、高須惟人、藤崎修、菊川元博、
松田知也、松本大昌、徳田理奈

第 50 回日本集中治療医学会学術集会
2023 年 3 月 2 日～4 日 於：京都府京都市

ECMO 導入後の緊急手術に伴う術後出血の頻度と血液凝固管理に関する検討

公立豊岡病院 救急集中治療科
番匠谷友紀、山岡由季、徳田理奈、
松田知也、谷口大介、菊川元博、
高須惟人、藤崎修、松井 大作、永嶋太

第 50 回日本集中治療医学会学術集会
2023 年 3 月 2 日～4 日 於：京都府京都市

nasal-CPAP デバイス固定に対する熟練看護師の認識調査

公立豊岡病院 看護部
早川 蘭、松本 朱花、東森 優子
第 53 回(2022 年度)日本看護学会学術集会
2022 年 11 月 8 日～9 日 於：千葉県千葉市

緩和ケア病棟における緩和ケアの質評価と今後の課題

公立豊岡病院 看護部
米口里沙、村野寿子、山崎恵、
城山奈穂美
第 53 回(2022 年度)日本看護学会学術集会
2022 年 11 月 8 日～9 日 於：千葉県千葉市

臨床倫理コンサルテーションチーム活動に対するチームメンバーの意識調査

公立豊岡病院 看護部
米口里沙、村野寿子、山崎恵、
城山奈穂美
日本臨床倫理学会第 10 回年次大会
2023 年 3 月 18 日～19 日 於：東京都

蛍光血管造影による外側胸動脈の大胸筋皮弁に対する血行寄与の検証

公立豊岡病院 歯科口腔外科
田中 太邦
第 67 回公益社団法人 日本口腔外科学会
2022 年 11 月 4 日～6 日 於：千葉県千葉市

当院におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用状況

公立豊岡病院 薬剤部
松下葵、中永かおり、木瀬大輔、
霜倉智子、岩本清典
近畿薬剤師合同学術大会 2023
2023 年 2 月 5 日 於：Web

当院の外傷診療における direct CT についての検証

公立豊岡病院 放射線技術科
田村和豊、山本明里、八城大輝、
濱本征平、丹波浩二、江尻克也、
辻北則保
第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会
2022 年 5 月 26 日～27 日 於：大阪府大阪市

データマネジメントシステムにおける ECMO 人工肺前圧計算値の性能評価

公立豊岡病院 臨床工学技術科
尾田友広、片岡明俊、谷口友基、
西田祐樹、西本剛、加藤航平、上岡翔太、
田中慎二、田中雅人、後藤佳子、
栃尾孝之、福井秀行
第 50 回日本集中治療医学会学術集会
2023 年 3 月 2 日～4 日 於：京都府京都市

医師事務作業補助者の管理 -てんやわんやの 3 年間-

公立豊岡病院
松本智子
第 24 回日本医療マネジメント学会
2022 年 7 月 8 日～9 日 於：兵庫県神戸市

臨床研修医の手技研修実施方法の検討～概要編～

公立豊岡病院
田口慎一郎
第 24 回日本医療マネジメント学会
2022 年 7 月 8 日～9 日 於：兵庫県神戸市

臨床研修医の手技研修実施方法の検討～実践編～

公立豊岡病院
小林和将
第 24 回日本医療マネジメント学会
2022 年 7 月 8 日～9 日 於：兵庫県神戸市

患者サービスの推進に向けて

公立豊岡病院

白髭清久

第24回日本医療マネジメント学会

2022年7月8日～9日 於：兵庫県神戸市

研修報告

緩和ケア病棟から一般病棟再編成に向けた人材育成するリーダーの育成

公立豊岡病院 看護師長

城山 奈穂美

1. はじめに

当院は、「高度かつ最適な医療を安定的に提供する」を理念とした但馬圏域内の基幹病院である。自部署は 20 床を有する緩和ケア病棟であるが、令和 5 年度より泌尿器科との再編成が決定している。自部署について病棟の再編成に対し、リーダー看護師の育成に取り組んだので報告する。

2. 現状分析

自部署は 20 床を有する緩和ケア病棟であるが、令和 5 年度より泌尿器科との再編成が決定している。これまでの緩和ケア実践力に加え、泌尿器科領域及び急性期ケアへの実践力の向上が必要である。それぞれの専門性を発揮し、両立したケアが実践できるか、スタッフは不安を抱えている現状がある。このことから、取り組むべき課題は、病棟再編成に伴うスタッフの不安やストレスを軽減し、泌尿器科領域及び急性期ケアに即応できる人材育成が必要と考えた。

3. 取り組みについて

1) 目的

泌尿器科領域及び急性期ケアを提供するための看護実践能力向上を目指し、教育的支援を行う。

2) 取り組んだ期間

令和 5 年 6 月～令和 6 年 3 月

3) 課題達成のための計画

(1) 泌尿器科領域及び急性期ケアを実践するための教育体制を整える。

1) 教育係を中心に、泌尿器科領域及び急性期ケア実践に必要な知識習得を目標に学習会を企画する。

6 月から 12 月：学習内容は泌尿器科領域の主な疾患と手術、ウロストミーの看護、リン

パ浮腫への対応、化学療法の知識と看護、クリニカルパスの使用法、心肺蘇生を含む急変時の対応と看護記録。講師は自部署のスタッフ、認定看護師及び泌尿器科医師、薬剤師など多職種に依頼。

2) 泌尿器科病棟研修を企画する。

泌尿器科病棟での看護実践と泌尿器科医師、看護師との“顔の見える関係性構築”を目的とする。

9 月：泌尿器科病棟師長に研修を依頼。スタッフに研修目的、方法の説明。副看護師長と共に「泌尿器科看護技術ハンドブック」を作成。

10 月：泌尿器科病棟勤務経験のあるスタッフ 2 名を除く、全スタッフを対象に日勤 5 日間の研修を開始。

令和 5 年 1 月中旬：泌尿器科病棟のメンバーの一員としてケア実践できるよう、リリーフ日勤業務を開始する。

(2) スタッフの不安軽減に繋がる場を設定する。

1) 日々のコミュニケーションや病棟カンファレンスの場を活用し、情報提供や「一般病棟再編成に向け目指す看護」について話し合う機会を設ける。

2) 評価として各学習会終了後、泌尿器科病棟研修終了後にアンケートを実施する。

4. 実践結果

リーダー会でカンファレンス実施を困難にする要因について検討した。「声をかけられない」「ナースコールやセンサーで離席していく」といった環境面と「メンバーから得た情報から、検討課題を見出すことができない」「患者状態からカンファレンスの優先順位がつけられない」など、自ら患者の状況を把握し、主体的に検討事項を提案することができない若いリーダーの未熟さが、不安要素になっていることが分かった。

環境面での改善策として、各チームのリーダーが実施時間の決定、応援体制をとるなどの調整を行い、チーム間で共有することとした。カンファレンス実施に対する不安については、個人の性格やリーダーとしての経験の差もあり、主体的に行動することはできなかったが、副看護師長、主任看護師がカンファレンスのファシリテーターとなり、そのスキルを伝授する場面もあった。

リーダー会で説明後、リーダーの自発的な行動を期待したが、行動に変化はなく副看護師長、主任看護師の支援を必要とした。しかし、12月は、実施に向け環境を整え、具体的な開催方法をリーダー自身が考えることで意識変化に繋がり、徐々にではあるが開催日が増えた。また、2月に看護師長がリーダーに、取り組みの実際と問題点、気持ちの変化や問題点について聞き取りを行った。

「患者個々のケアを考えるようになった」「多職種参加の時間調整が難しい」などの意見があった。リーダーによっては、リハビリを見学し、情報収集と事前に多職種とカンファレンス内容を検討し提示するようになった。業務状況により定着には至らないが、取り組み前と比較し、カンファレンス開催の調整や検討内容の抽出、多職種への参加依頼などリーダーの行動に変化が見られた。

育成面接時のキャリア開発リーダーの「教え育む力」「創造改善する力」の自己評価は「できる」は33%「支援があればできる」は67%とやや向上し「努力を要する」と自己評価したスタッフは1人もいなかった。

5. 考察

学習会は、知識習得すべき優先度を考え計画的に実施したことで、泌尿器科病棟研修に向けた学習レディネスを高めるのに役立ったと考える。泌尿器科病棟研修では、不慣れな職場環境がストレスとなっていたが、泌尿器科医師、看護師と共に、ケアの実際や業務の流れを経験できたことにより、不安軽減に繋がったと考える。研修終了後からは、泌尿器科病棟のメンバーの一員として、リリース日勤業務を計画している。今後も看護師長間で教育体制を検討・調整し、スタッフ一人一人が自立した判断で、病棟再編成後のケア実践に即応できる人材育成を継続する必要がある。懇談会の開催は、看護師長の取り組みに触発された、主任看護

師の役割意識からなる自発的な行動変容である。このことは、スタッフのエンゲージメントを高める契機となり、部署運営の推進力にも繋がったと考える。

古川¹⁾は、「管理者は、自職場が直面し求められている課題をよく整理して、自らの基軸づくりをする。それをスタッフに明快に説明し理解を促すこと」と述べている。この度、病棟再編成という局面に際し、課題解決に取り組む中で、「泌尿器科・緩和ケア科の専門性を尊重したケア実践ができ、安心・安全な療養環境を提供する」との思いを、揺らぐことなく伝え続けることの重要性を認識した。また、機会を捉え、スタッフのモチベーションを考慮しながら動機付けを行い、エンゲージメントを高め、個々の役割遂行能力の発揮に繋げていくことが、看護管理者の役割であると考えた。

6. 参考文献

- 1) 古川久敬:管理者とスタッフによる役割の獲得と再定義、井部俊子監修/手島恵編集 看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論 日本看護協会出版会 155 2022

資料

公立豊岡病院紀要投稿規定

- 1) 本紀要は公立豊岡病院（本院）の職員およびその関係者の研究業績等を掲載する機関紙（電子媒体）で年1回発行します。
- 2) 本紀要に掲載する内容は次の通りとします。
 - ①研究論文（総説、原著、症例報告等。但し他誌に発表されていない論文に限ります。なお、学会、研究会での発表はこの限りではありません。）
 - ②研究業績（原著論文、総説・解説、著書および学会・研究会発表。但し、本院に関係した業績に限ります。）
 - ③講演会、集談会等の学術活動の業績
 - ④視察、研修講習会等の報告、後記
 - ⑤その他編集委員が適当と認めたもの
- 3) 原稿は次の要領で記載してください。
 - ①研究論文は和文または英文とします。
 - (a)論文執筆にあたっては論文執筆要領を参照してください。
 - (b)著者校正は誤植の訂正にとどめ、内容の改変はしないでください。
 - ②学会、研究会の発表業績は発表抄録を収載します。他に演題名、所属、氏名、学会研究会名、発表月日を付記してください。
 - ③研究業績については和文の場合800字程度、英文の場合400語程度の抄録を収載します。他に表題、所属、著者名、掲載誌名または著書名、発行所、巻（号）、頁（始頁-終頁）、発行年（西暦）を付記してください。
 - ④講演会、研修会等の業績については演題名、所属、氏名、会名、発表年月日の順に記載してください。
 - ⑤視察、研修講習会等の報告等は論文執筆要領1]に準じてください。
- 4) 本紀要の掲載研究業績の区切りは本誌発行の前年度（前年4月1日より発行年3月31日まで）とし、原稿の締切は8月末日とします。なお、原著論文、著書等においては発行年月日をもって業績日とします。
- 5) 本紀要の原稿は編集委員会事務局へ提出してください。なお、不明点、疑問点がありましたら、事務局にお尋ねください。

公立豊岡病院紀要編集委員会

事務局：〒668-8501 兵庫県豊岡市戸牧 1094

公立豊岡病院 教育研修課

TEL:0796-22-6111 内線 2217

公立豊岡病院紀要論文執筆要領

1) 和文論文、英文論文とも、ワープロまたはパソコンの編集ソフトを使用して作成したものを、A4判の用紙に片面印刷して提出する。書式などは特に問わないが、ごく標準的な形式であることが望ましい。

文字数は、和文論文で約5,000字、英文論文で2,500語を超えない程度とし、図表・写真は合計で12枚程度とする。

なお、テキストデータを保存した記憶媒体を同時に提出する。また、画像データについては編集ソフトで貼り込んだものの他に、オリジナルのデータを添付することが望ましい。ポジフィルム、プリントも受け付ける。

2) 論文の構成は表題、所属、著者名、要旨、キーワードおよび本文とする。本文は緒言、症例、方法、成績、考察、結語および文献とし、図表を付ける。

なお、これらの項目のうち適宜省略しても構わない。

3) 表題は内容を簡潔、的確に明示するものとし、略語はなるべく用いない。

4) 要旨は、和文では400字以内、英文では200語以内とし、内容を的確に表現する。

5) キーワードは英語で5個以内とし、Index Medicusなどで用いられている用語が望ましい。また、用語の先頭の文字は大文字で記載する。

(例) Key Words : Echocardiogram, Acuteabdomen, Digoxin

6) 本分での人名はなるべく原語を用いる。略語を使うときは初出時に正式名を記し、() 内に記入した後に使用する。関連領域で周知の略語でも乱用は避ける。度量衡の単位はCGSを、年号は西暦を、数字は算用数字を使用する。

7) 図、表、写真は和文の場合は図、表、写真、英文の場合はFig, Tab, Photoと記し、複数の場合には1,2,...を添え、必ず標題を付ける。また、必要ならば説明を添える。

なお、図、写真の説明は下に、表の場合は上に入れ、図表等の挿入箇所を本文の欄外に指定する。

8) 文献の記載は本文該当部の右肩に引用順に番号(引用番号)を片括弧で記し、本文最後の文献の項に整理して記す。

(a) 著者名は2名までのときは併記、3名以上のときは筆頭者氏名、他とする。

(b) 表題は必ず記載する。

(c) 雑誌名は個々の雑誌で定めた略記に従い、省略の

ピリオドは打たない。

(d) 頁は通巻頁により、最初と最後を併記する。

(e) 文献記載の書式は、雑誌の場合、引用番号、著者名、表題、雑誌名、巻(号)、頁(始頁—終頁)、発行年(西暦)の順に、また、単行本の場合は引用番号、著者名、表題、書名(編集名)、巻数、版数、出版社名、発行年(西暦)、頁(始頁—終頁)の順に記載し、以下の例示に従う。

[雑誌]

1) 長尾光、河村慧四郎：心筋症と心臓突然死。

最新医学 46(5) : 1067—1071, 1991

2) 北村正次、他：早期胃癌の術後再発形式および死亡原因の検討。日消外会誌 24(12) : 2894—2899, 1991

3) Rawal N, Wattwil M : Respiratory Depression after Epidural Morphine-An Experimental and Clinical Study. Anesth Analg 63(1) : 8—14, 1984

4) Lin C et al : The internal septal echocardiogram : Relationship to leftatrial volume change in normal and disease heart.

Am Heart J 107(3) : 519—525, 1984

[単行本]

5) 坂本恵子：ストーマケア オストメートへの理解と援助。第1版、医学書院、1985、p108—133

6) 和田義郎：小児の蛋白代謝とその調節、新小児医学大系(小林登、他編)、第17巻A(小児代謝病学I)、第1刷、中山書店、1984、p241—253

7) loeb R : Aesthetic Surgery of the Eyelids, 1st ed, Springer-Verlag New York Inc, 1989, P49—52

8) Grossman M et al: Diagnostic Needle Aspiration of the Pancreas.

Gastroenterology (Berk JE et al eds), Vol16, 4th ed, Saunders Company, 1985, p3962—3970

9) 本紀要の論文は

国立国会図書館 (ISSN)、医学中央雑誌、JOISのデータベースに登録されますので、和文論文では英文の、英文論文では和文の抄録を付けることを歓迎します。抄録は表題、著者名、所属、キーワード(5語以内)および抄録分(和文：400字以内、英文：200語以内)で構成し、抄録文では目的、結果および結論を明示する。

編集後記

第 35 号公立豊岡病院紀要をお届けいたします。

本号も with コロナという困難な時期にも関わらず、皆一丸となって創り上げていただきました。皆様には感謝の言葉しかありません。

新型コロナウイルス感染症が昨年 5 月に 5 類感染症へと移行され、人流も活発となりました。対面での学会が開催され多くの方が、学会へ足を運ばれ、ようやく活気が戻ってまいりました。そのような中でこの号では研究論文 3 篇、研修報告 1 篇と、他誌に掲載された 7 篇の論文、多数の学会発表を紹介することができました。

皆様の学術的に、情熱的にいろいろ取り組まれておられることに感動いたします。

公立豊岡病院紀要は、これからも地域の人々により良い医療を提供するため、学術的に向上する場所となっていきたいと考えています。

ご投稿いただきました皆様、また、研究紀要運営委員・職員の方々に感謝申し上げます。これからも「公立豊岡病院紀要」は続きます。公立豊岡病院の輝かしい未来を創るために、そして、我々自身のすばらしい未来を創るために、来年度も「紀要」に投稿をお願いします。

公立豊岡病院紀要編集委員会
委員長 松島 一士

紀要編集委員会

委員長

松島 一士（図書学術室長）

委員

岸本 一郎（病院長補佐）	石田 明彦（循環器内科）
稲葉 京子（看護部）	吉谷 雅代（看護部）
辻井 聡容（薬剤部）	山田 かなこ（検査技術科）
糸乗 卓哉（リハビリテーション技術科）	田中 薫（教育・診療支援部）
坂田 康則（教育研修課）	

事務局

京 大地（教育研修課）

公立豊岡病院紀要 第 35 号

令和 6 年 3 月 31 日発行

編 集 公立豊岡病院紀要編集委員会

発行・印刷 公立豊岡病院組合立豊岡病院

兵庫県豊岡市戸牧 1094

TEL (0796)22-6111